

伊丹市下水道ビジョン2035（案）

概要版

令和8年2月
伊丹市上下水道局

目次

1. 伊丹市下水道ビジョン2035策定の概要	• • • P 1
2. 現状と課題	• • • P 2
3. 将来の事業環境	• • • P 3
4. 実施目標と具体的施策	• • • P 5
5. 投資・財政計画	• • • P 7

1. 伊丹市下水道ビジョン2035策定の概要

策定の趣旨

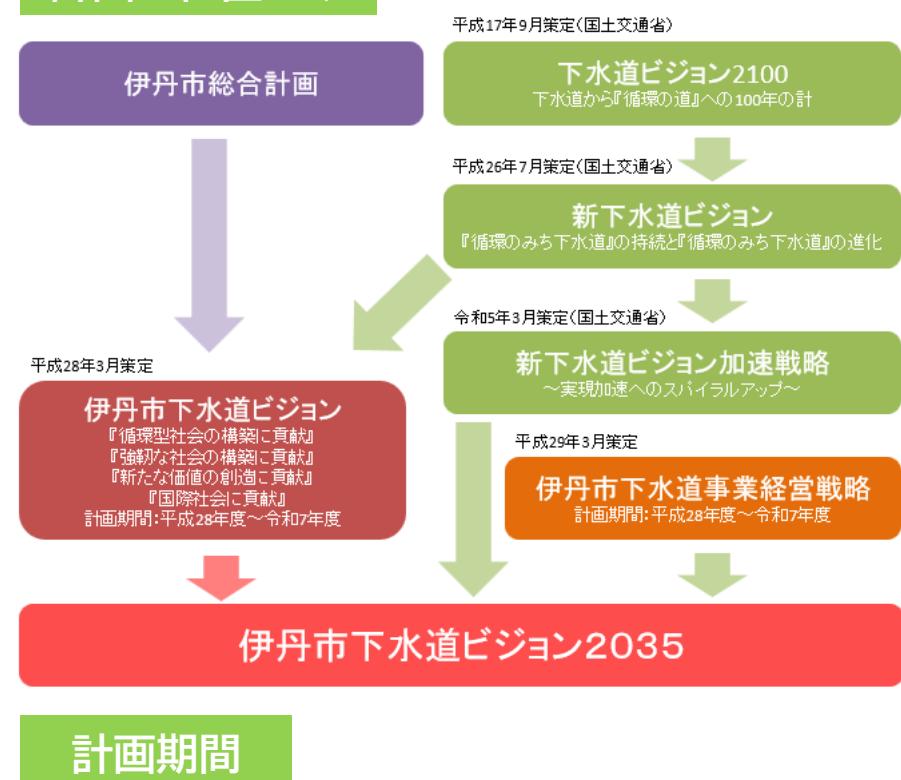
下水道は、人々の生活や社会経済活動を支える重要な社会基盤の一つであり、社会的ニーズの変化に応じて機能の拡充を図りながら、公衆衛生の向上、生活環境の改善、公共用水域の水質保全、浸水の防除等に貢献してきました。

しかしながら、人口減少や節水機器の普及による水需要の減少、老朽施設の更新需要の増大や大規模災害への備えなど下水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、これらへの対応が求められています。

将来にわたる下水道事業の安定的な運営、様々な課題への対応のため、本市では「伊丹市下水道ビジョン2035」を策定し、下水道事業の長期的な方向性を明確にします。

本ビジョンでは、前ビジョンの基本理念である「快適な暮らしと循環型社会に貢献する 伊丹の下水道」を継承し、「安全・安心」「持続」「経営」の観点より施策を展開します。下水道事業の安定的な運営、浸水対策などの災害対応力の強化、持続可能な経営基盤の構築、環境への配慮、市民サービスの向上など、様々な視点から施策を推進し、将来にわたって市民に信頼される下水道サービスの実現を目指します。

計画の位置づけ



計画期間

本ビジョンの計画期間は、
令和8(2026)年度から
令和17(2035)年度までの10年間とします。

2. 現状と課題

施設整備状況等

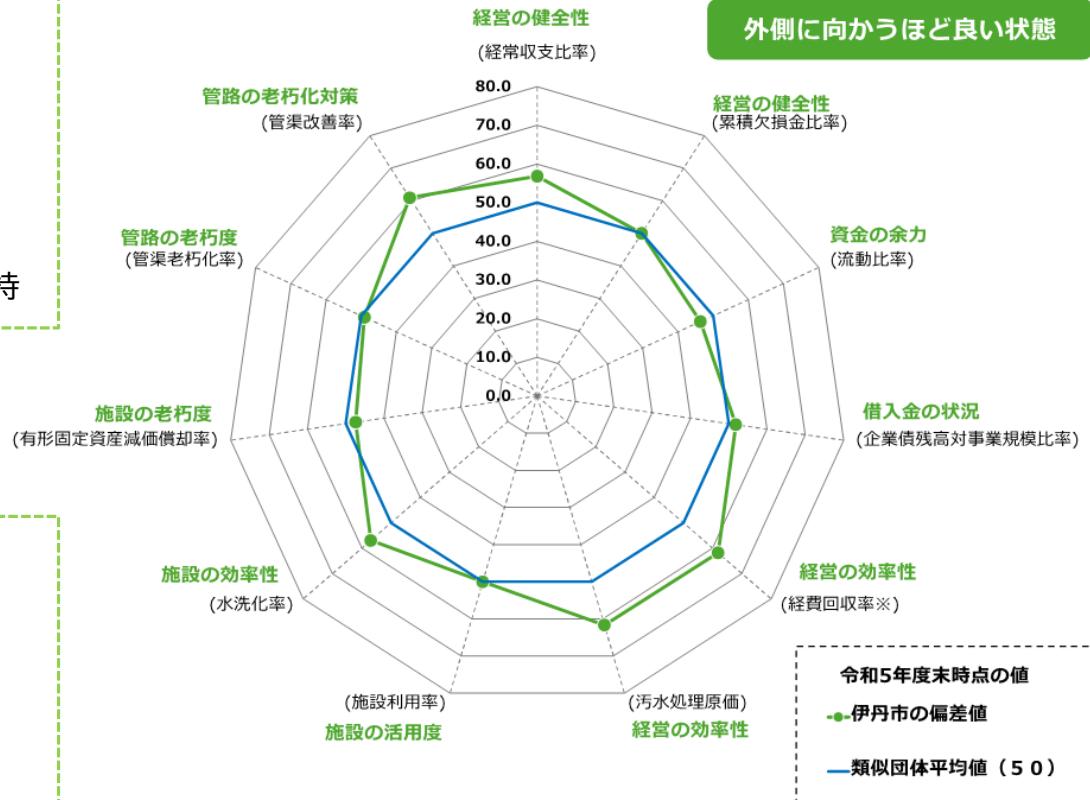
- 浸水対策として雨水管渠や貯留施設を整備
- 年間約2キロの汚水管渠更生工事を実施
- 雨水ポンプ場の長寿命化対策として設備等の改築・更新工事を実施
- 健全経営により経常収支比率100%以上維持

今後の課題

- 計画降雨対策の着実な推進
- 老朽化が進む管渠施設の更新の加速化
- 災害に備えた下水道の耐震化
(上下水道一体の耐震化)
- 事業運営安定化に向けた
下水道ウォーターPPPの導入

経営指標の類似団体との比較（標準偏差方式）

外側に向かうほど良い状態



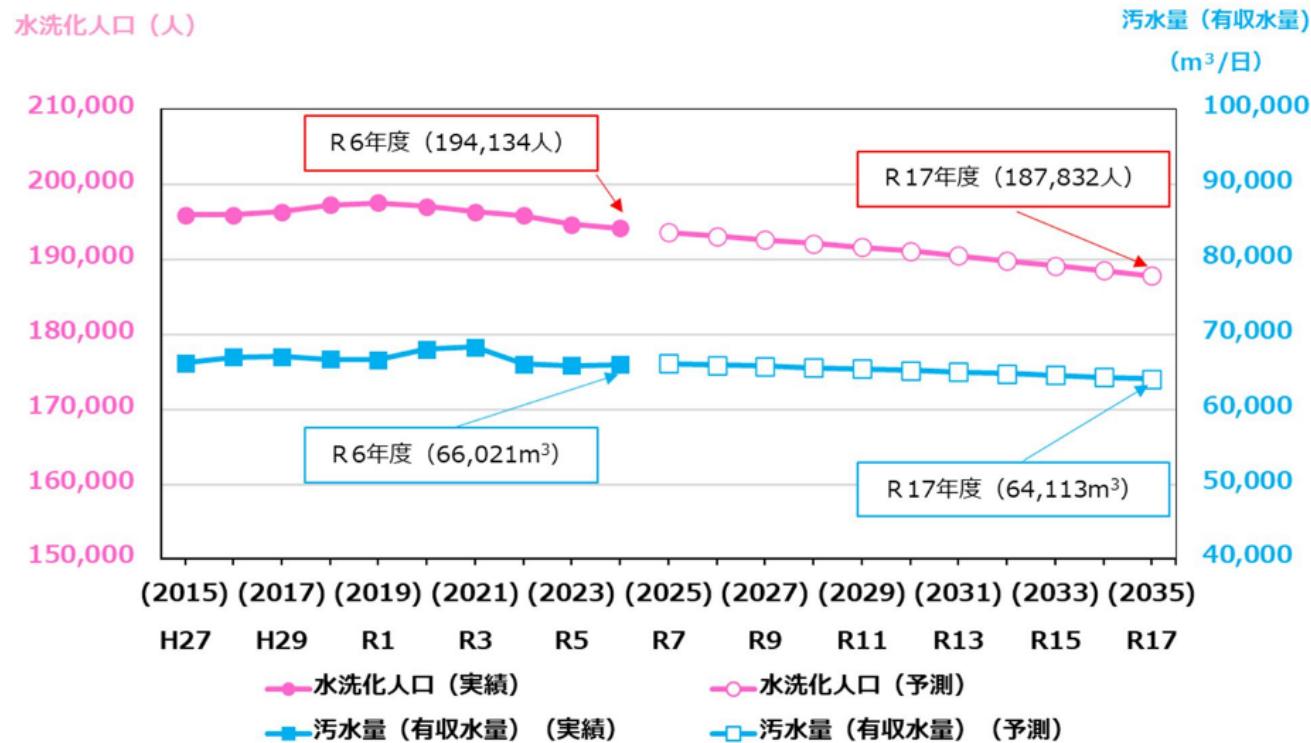
※類似団体：処理区域内人口10万人以上、処理区域内人口密度75人/ha以上、供用開始後30年以上の団体を指す。

※経費回収率については、令和5年度に公共料金等負担軽減事業(基本使用料2期分減免)を実施した影響を考慮している。

3. 将来の事業環境(1)

水洗化人口・汚水量の見通し

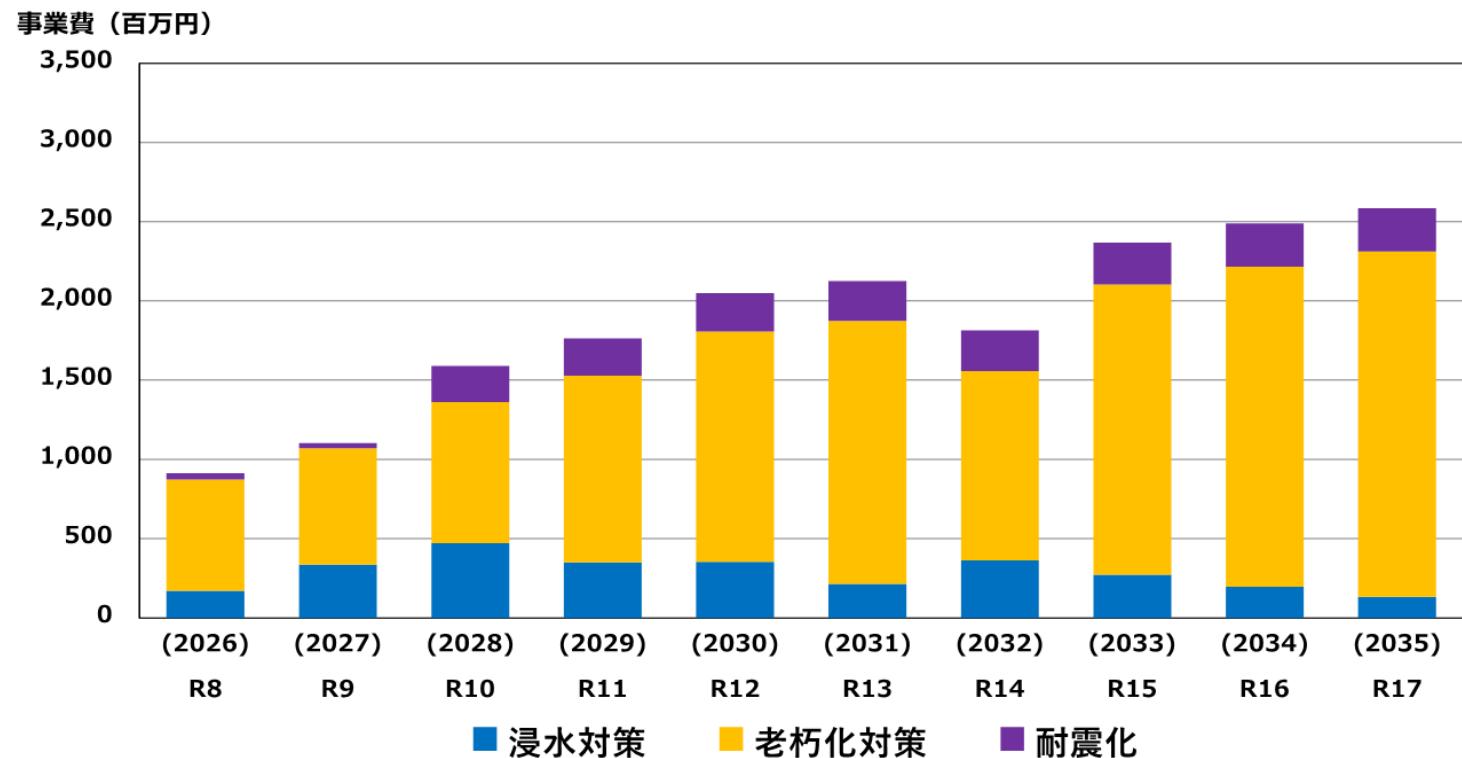
国立社会保障・人口問題研究所の人口予測等により、水洗化人口は緩やかな減少傾向を示し、令和6年度の194,134人から令和17年度には187,832人と、約3.2%の減少が予測されます。また、汚水量（有収水量）についても、節水機器の普及などにより減少が予測されます。



3. 将来の事業環境(2)

更新需要の見通し

令和8年度～17年度までの主な更新需要としては、浸水対策として雨水幹線である金岡川等の改修工事を、老朽化対策として污水管渠や雨水ポンプ場等の改築・更新を、上下水道一体耐震化として下水管路の耐震化工事などを予定しています。



4. 実施目標と具体的施策(一覧)

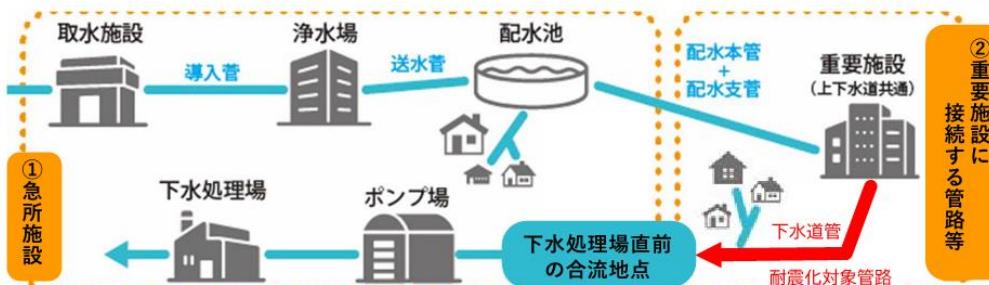
基本理念 快適な暮らしと循環型社会に貢献する 伊丹の下水道		
基本目標	実施目標	具体的施策
1.暮らしを守る 下水道 (安全・安心)	1. 浸水対策の充実 2. 施設の強靭化と危機管理体制の充実	1. 計画降雨対策の実施 2. 流出抑制施策の実施 1. 下水道の耐震化（上下水道耐震化計画） <u>(次ページ説明)</u> 2. 危機管理マニュアル等の充実
2.いつでも 使える下水道 (持続)	1. 施設整備と維持管理（汚水）	1. ストックマネジメント計画の実践と見直し (污水管渠) 2. 雨天時浸入水対策の推進 3. 管渠の維持管理
	2. 施設整備と維持管理（雨水）	1. ストックマネジメント計画の実践と見直し (雨水管渠) 2. ストックマネジメント計画の実践と見直し (雨水ポンプ場施設) 3. その他施設の長寿命化
	3. DX・GXの推進	1. 下水道DXの活用 2. 脱炭素化に向けた取組みの推進
3.未来へつなぐ 下水道 (経営)	1. 良好的な下水道経営	1. 安定的な財源の確保及び持続可能な経営の推進 2. 事業マネジメントの実践
	2. 組織体制の強化	1. 強固な組織体制の構築及び人材の確保と技術力の向上 2. ウォーターPPP導入による安定的な事業運営の推進
	3. 市民への情報提供・サービスの充実	1. 情報発信の強化と双方向コミュニケーションの推進 2. 市民参画型サービスの充実

4. 実施目標と具体的施策(下水道の耐震化)

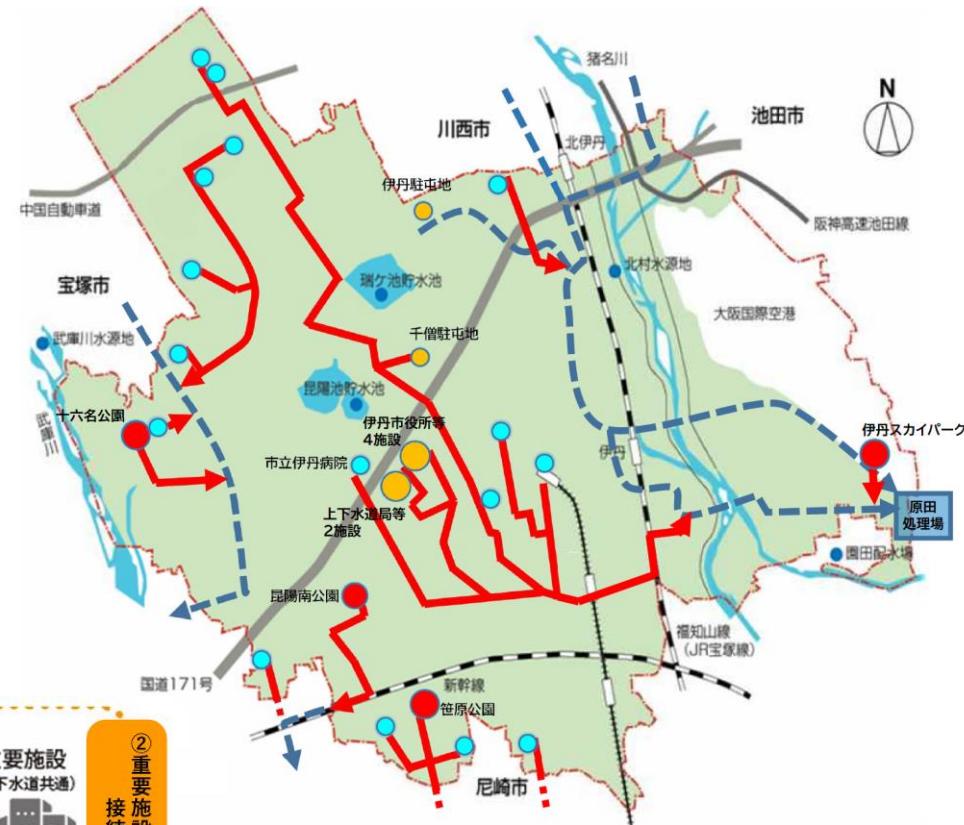
事業内容

災害時において水を使用するには、水道と下水道の両方の機能を確保することが重要であり、重要施設に接続する上下水管路等の耐震化を計画的に推進します。

災害時に機能確保が不可欠な重要施設（避難所・防災拠点・医療機関等）から流域下水道に接続するまでの下水管のうち、耐震性が不足していると判定された管路の耐震化を進めます。
(事業費約20億円/10年間)



～上下水道一体耐震化イメージ～



凡 例	延長・箇所数
耐震化対象管路	約26km
避難場所等	4箇所
防災拠点	8箇所
医療機関	16箇所
流域下水道管路	28箇所

5.投資・財政計画(1)

投資計画

下水道事業を安定的に継続するため、下水道施設のライフサイクル全体を通じて効率的かつ効果的に管理・運営することが不可欠であり、本下水道ビジョンが掲げる基本目標および実施目標を踏まえ、「浸水対策」、「老朽化対策」及び「耐震化」の3事業を主要施策として推進します。

下水道施設整備計画 188 億円

事業名称

(2026) (2027) (2028) (2029) (2030) (2031) (2032) (2033) (2034) (2035)

R8 R9 R10 R11 R12 R13 R14 R15 R16 R17

浸水対策

事業計画

雨水管渠整備事業（浸水対策）

29 億円

老朽化対策

ストックマネジメント計画

污水管渠整備事業

雨水管渠整備事業（老朽化対策）

139 億円

雨水ポンプ場施設整備事業

その他下水道施設整備事業

耐震化

下水道の耐震化（上下水道耐震化計画）

20 億円

5.投資・財政計画(2)

財政計画

計画期間中は下水道使用料が減少傾向にありますが、企業債の適正な管理などにより支払利息が減少することなどで、毎年度2億円以上の利益を確保できる見通しとなっており、計画期間中は使用料改定を行わない予定です。しかしながら、財政状況の見通しについては、将来の水需要、投資計画の進捗や施策の取り組み状況、国庫補助金の採択状況などにより変動する可能性があります。

収益的収支及び当年度純利益の状況（汚水）

